

薬剤治療学 I

責任者 : 西郡 秀夫 教授
担当講座 (科) : 薬剤治療学講座

講義 22.5 時間
単位 2 単位

学 年

3 学年 前期

学習方針

基本理念 :

私達は身体を守り、健康を維持し、成長し、子孫を反映させるために体内に必要な機構・機能を備えている。そして、多くの病気はホルモンなどの生成・分泌調節の不調や、身体の機能が環境と食生活の変化などに対応できないで発症する。本講義では内分泌調節機構、内分泌代謝疾患、内分泌関連医薬品などについて教授する。

一般目標 (GIO) :

内分泌代謝疾患の治療法を理解するためにホルモンの生理作用、調節機構、関連疾患治療薬に関する知識などを習得する。

到達目標 (SBOs) :

1. 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。
2. 下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を説明できる。
3. タンパク・ペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用及び分泌調節機構を説明できる。
4. 尿崩症など代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。
5. 血糖の調節機構とホルモンについて概説できる。
6. 糖尿病とその合併症、適切な治療薬、その使用上の注意について説明できる。
7. 消化吸収におけるホルモンと神経の役割について説明できる。
8. 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用及び分泌調節機構を説明できる。
9. 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、及びその使用上の注意について説明できる。
10. ステロイドホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用及び分泌調節機構を説明できる。
11. 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。
12. クッシング症候群、アジソン病、アルドステロン症の病態生理、適切な治療薬、及びその使用上の注意について説明できる。
13. 性ホルモン関連疾患(含前立腺肥大症、前立腺がん など)とその治療薬について説明できる。
14. 骨そしょう症、骨軟化症の病態生理、適切な治療薬、及びその使用上の注意について説明

できる。

15. 乳がん、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮内膜症について概説できる。

16. 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。

17. 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。

18. 薬物の代表的な投与法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。

講義日程

月日	曜	時限	講座（科）名	担 当 者	内 容
4/16	木	2	薬剤治療学講座	西郡 秀夫 教授	薬剤治療とは、健康と疾病、ホメオスタシスとフィードバック
4/23	〃	〃	〃	〃	下垂体ホルモン（Ⅰ）：成長ホルモン、プロラクチン
4/30	〃	〃	〃	〃	下垂体ホルモン（Ⅱ）：甲状腺刺激ホルモン、副腎皮質刺激ホルモン
5/ 7	〃	〃	〃	〃	下垂体ホルモン（Ⅲ）：性腺刺激ホルモン、抗利尿ホルモン、オキシトシン、関連疾患と治療薬
5/14	〃	〃	〃	〃	すい臓ホルモン：グルカゴン、インスリン、関連疾患と治療薬
5/21	〃	〃	〃	〃	消化管ホルモン
5/28	〃	〃	〃	〃	タンパク・ペプチド系ホルモンのまとめ
6/ 4	〃	〃	〃	〃	甲状腺ホルモン、関連疾患と治療薬
6/11	〃	〃	〃	〃	ステロイドホルモン（Ⅰ）：副腎皮質ホルモンと代用薬
6/18	〃	〃	〃	〃	ステロイドホルモン（Ⅱ）：男性ホルモン、黄体ホルモンと代用薬、抗ホルモン薬
6/25	〃	〃	〃	〃	ステロイドホルモン（Ⅲ）：卵胞ホルモンと代用薬、抗ホルモン薬、生殖器系疾患など薬剤投与（剤形・経路・投与量）
7/ 2	〃	〃	〃	〃	ホルモンと疾患：骨疾患（骨そしょう症、骨軟化症）、乳がんなど
7/ 9	〃	〃	〃	〃	薬剤投与（剤形・経路・投与量）
7/16	〃	〃	〃	〃	薬物相互作用と副作用（Ⅰ）
8/27	〃	〃	〃	〃	まとめ

教科書（教）・参考図書（参）・推奨図書（推）

	書名	著者名	発行所	発行年
教	病気が見える vol 3 第2版 糖尿病・代謝・内分泌	監修 松澤 佑次 他	MEDIC MEDIA (定価 3,150 円)	2008 年
参	図解 薬理学 ー病態生理から考える薬の効くメカニズムと治療戦略ー	越前 宏俊	医学書院 (定価 2,940 円)	2008 年

成績評価方法

定期試験を主とし、これに出席率などを加味して総合的に評価する。

オフィスアワー一覧

授業を担当する専任教員氏名	方式	曜	時間帯	備考
薬剤治療学講座 西郡 秀夫	B - ii			不在の時もあるので、研究室に問い合わせること。